

船舶事故調査報告書

平成21年11月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	平成21年5月10日 05時15分ごろ
発生場所	北海道 <small>もりまわしのき</small> 森町鷺ノ木漁港北方沖 森港西防波堤灯台から真方位294° 2.0海里付近（概位 北緯42° 07.6′ 東経140° 33.0′）
事故調査の経過	平成21年5月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <small>こうえい</small> 幸栄丸、4.2トン HK3-103488（漁船登録番号）、個人所有 12.50m(Lr)×2.86m×0.82m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和59年1月30日
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年10月3日 免許証交付日 平成16年10月25日 （平成22年8月22日まで有効） 甲板員 男性 54歳
死傷者等	死亡 1人（甲板員）
損傷	なし
事故の経過	本船は、平成21年5月10日04時00分ごろ、船長ほか甲板員1人が乗り組み、ほたて漁の目的で、鷺ノ木漁港を出港し、同漁港北方沖1,200m付近の漁場において操業を行い、05時15分ごろ、船長が操船して同漁場を発進した。 05時30分ごろ、船長は、鷺ノ木漁港に帰港して岸壁に着けるとき、いつも船首部でもやいロープを取る甲板員がいないことに気付き、直ちに漁場に戻ったところ、僚船が来たので甲板員が行方不明になったことを説明して一緒に捜索を始めた。 僚船が、漁場付近の海面で、甲板員の帽子が浮いているのを発見し、僚船間の無線を傍受した漁業協同組合が状況を確認後、ダイバーを手配し、07時10分ごろ、漁場付近に到着して甲板員を捜索した。 07時27分ごろ、漁場付近の海底に沈んでいる甲板員をダイバーが発見した。 甲板員は、僚船で鷺ノ木漁港に到着し、救急車で病院に搬送された後、溺死と検案された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好

	海象：波高 平穩、水温 約8℃（水面下約1m）								
その他の事項	<p>甲板員は、約20年間、毎年1月初めから5月末ごろまで本船に乗り組んでほたて漁に従事していた。</p> <p>甲板員の体調は、いつもの調子で変わった様子はなかった。また、悩みを抱えている様子もなかった。</p> <p>甲板員は、泳ぎは達者であった。</p> <p>甲板員は、上下とも合羽を着用し、ゴム長靴を履いていたが、救命胴衣は着用していなかった。</p> <p>船長は、漁場を発進する際、甲板員が後部甲板に立ち、たばこを吸っているのを確認した。</p> <p>船長は、船体前部の操舵室で操船に当たっており、甲板員が落水したときの声や音を聞いていなかった。</p>								
分析	<table border="0"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td>甲板員は、本船が漁場を発進した直後、救命胴衣を着用せずに落水した可能性があると考えられるが、その状況については明らかにすることができなかった。</td> </tr> </table>	乗組員等の関与	不明	船体・機関等の関与	なし	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	甲板員は、本船が漁場を発進した直後、救命胴衣を着用せずに落水した可能性があると考えられるが、その状況については明らかにすることができなかった。
乗組員等の関与	不明								
船体・機関等の関与	なし								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	甲板員は、本船が漁場を発進した直後、救命胴衣を着用せずに落水した可能性があると考えられるが、その状況については明らかにすることができなかった。								
原因	本事故は、本船が鷲ノ木漁港北方沖の漁場を発進した直後、甲板員が救命胴衣を着用せずに落水したため、発生した可能性があると考えられる。								